

社会福祉法人葵会 2022年度評価書・・・自己評価(職員) 関係者評価者(法人役員・評議員・小学校等)

		A:達成 B:ほぼ達成 C:未達成 D:該当なし	
1.運営		総合評価 B	
項目	評価項目	評価	概要
地域貢献事業		評価	
法人	(1)地域活性化のための支援活動		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民のニーズ調査(昨年度より引き続き)</li> <li>・コロナ禍での地域住民への支援活動の具体的取組</li> <li>*様々な業種と連携を開始する</li> <li>*様々な世代による懇談会開催</li> </ul>	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉推進協議会が地域の調査を実施し、当法人が事務局を担当した。結果地域の住民の要望や現在の状況等が多少なりとも見えてきている。</li> <li>・中山間地振興課から移動スーパーの話をいただき、マックスバリュや行政職員・地区社協役員・連合自治会長と供に話し合いをすすめ、12月から実施。</li> </ul>
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域懇談会は意義のあるものだった。地域の未来を他世代で考える良い機会となった。ここに小中学生が参加していたらもっと良かったと思うので次年度は地域のこのような活動には是非参加させてほしい。小学生はS型デイサービスに参加することで高齢者と交流したり高齢者へのプレゼントをつくったりと地域の福祉について考える授業を行っている</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域各団体への専門的支援</li> <li>*民生委員、包括支援センターとの連携を図り高齢者の困りごとを明確にする</li> <li>・S型デイサービスやシニアサポーターの育成を支援する</li> </ul>	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土をよくする会はず北こだマルシェを開催した。開催に向け出店のとりまとめから当日の活動まで地域担当職員が支援した。</li> <li>・地区社協の事務局としては例年通りの活動を行った。また自治会連合会の印刷作業等も定着している。</li> <li>・S型デイサービスでは、開催場所を提供し講師や包括支援センターの職員も参加していただいた。</li> </ul>
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協の活動や自治会の活動支援をしている事で地域役員は大変助けられている。</li> <li>・高齢者は包括支援センターに相談できるということが地域住民に定着してきている。この施設が包括の役割等を広報していることも要因の一つである。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体との協力活動</li> <li>各小中学校・保健センター・地域包括支援センター・警察等</li> <li>・災害に対する避難について地域の実情に応じた対策を講じるために自主防災組織と検討会を開く</li> </ul>	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体との連携する体制は整い、稼働している。</li> <li>・賤機北小学校で開催された防災教育推進のための連絡会議に出席。災害時には当法人の施設を避難所として開放していること、防災用品の備蓄をしていることを自主防災会へ報告。</li> <li>・土砂災害で避難する家庭に施設を開放し1晩宿泊された。急なことだったが早い対応ができた。しかし緊急時の職員体制がはっきり決まっていないので次年度は職員全体で検討し明確にしていきたい。</li> </ul>
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所として地域住民を含めて備蓄用品を準備していることは福祉施設として大切。</li> <li>・職員体制を整えることも大切だが職員にも住む地域があるので、まずは地域住民が避難した時の活動を自分たちで考えておくべきだと思う。備蓄品を用意しているだけでもありがたい。それを活用する手段は地域防災組織が果たす役割である。</li> <li>・協力活動の具体的な内容説明が欲しい。</li> </ul>
	(2)介護予防活動		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操を実施する</li> <li>活動再開により安否確認や健康維持の機会を設けていく。</li> <li>・外出支援の活動を積極的に行う</li> </ul>	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は健康体操やS型デイサービスを実施できた。S型デイサービスへの参加を呼び掛けたり、送迎サービスを実施して自宅外での活動機会を設けてきた。</li> <li>・安否確認は個別に訪問する計画を立ててなかったので実施できなかった。次年度は計画の有無に問わず必要な対応を臨機応変にしていく。</li> </ul>
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操とS型デイサービスの参加者がほとんど同じなので月に2回体操ができると喜んでいる。健康体操が再開できてありがたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙による啓蒙活動</li> <li>*広報紙の内容を法人活動の広報ではなく、健康に関する豆知識を掲載する</li> </ul>	自己評価 C	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な広報紙の発行はできなかった。</li> <li>コロナ禍で回覧等の依頼を自治会に対してできなかった。</li> <li>ホームページやInstagramでの広報活動は随時行うことができた。</li> <li>職員の掲載に対する意識が高まっている</li> </ul>
		関係者評価 C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページはよく見ている。行事毎に子どもたちの姿を見ることは楽しい</li> <li>・地域住民はホームページ等よりも紙面での提供を望んでいると思う。しっかりと計画的に発行すべきである。</li> </ul>

保育の充実		評価	
こども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境設定               <ul style="list-style-type: none"> <li>自然に対する「なぜ」「どうして？」を引き出す環境を整える</li> <li>*科学的発見や感動ができるこども</li> <li>*試行錯誤するための時間と空間の保証</li> <li>*ケース検討による発達理解と環境設定についての情報共有</li> </ul> </li> <li>発達状況や季節に応じた環境を意識する</li> </ul>	自己評価 B	子どもが遊びの中で遭遇した不思議や疑問に、保育者が同じように対する姿勢はあるが、その探究心や試行錯誤に関わるための、職員同士の協力体制が十分でなかった。ただ、子ども達がすぐに調べられるような環境に心掛けることができた。もう少し保育者が関わることが出来れば、もっと子どもの学びが深められたのかもしれない。
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつも元気な子どもたちに会うことが楽しみとなっている。具体的な遊びをじっくりと見守ることはできていないが、我先に自分の思いを話そうとする姿に園での生活が充実していると感じる。</li> <li>図鑑の配置や水槽など、子どもたちの目線や動線を考慮して環境を整えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育               <ul style="list-style-type: none"> <li>目指す姿を具体化することで保育者のかかわり方を明確にする</li> <li>こどもの姿                   <ul style="list-style-type: none"> <li>*夢中で遊ぶ子</li> <li>*好きがたくさんある子</li> <li>*自己主張ばかりでなく人の話を聞いて理解しようとする子</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>異年齢での活動のねらいを職員間で共有</li> </ul>	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりのこどもへの対応は丁寧だが、子どもの自主性・主体性を信じて待つことができなかった。</li> <li>年長児の成長は著しく、自身の目標を持ち取り組む事でより達成感を感じる事ができ、より自信を持たせることができた。</li> <li>教育的配慮については保育者の意識統一が難しく個人レベルだった。</li> </ul>
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことを話したい思いが先に立ち人の話を聞くことができていないように感じる。</li> <li>異年齢での微笑ましい触れ合いを来訪するたびに見受けられる。自然に思いやる心が育まれている。</li> <li>遊びに対するしかけが足りないのではないかと。保育を見ていてそれが感じられない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳児保育               <ul style="list-style-type: none"> <li>*職員動態を明確化することで保育の充実を図る (担当の役割・他職員との連携を意識する姿勢)</li> <li>*子どもの姿                   <ul style="list-style-type: none"> <li>安心してあそぶ子</li> <li>よく食べ、よく笑う子</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>2歳児は流動的な担当制で活動や食事をしたことで、1日を通してより丁寧に子どもたちに関わり生活習慣の自立を目指すことができた。</li> <li>発達に応じた手作り玩具を随時提供したり、成長や子ども達の興味に合わせて環境を変化させていくことで、子ども達の満足度が上がった感じがある。</li> <li>各歳児に複数担任制で保育しているせいか、他歳児担当職員の支援を求める意識が薄かった。</li> </ul>
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな子供たちが保育者の周りで安心して遊んでいる。また自分の言い分を主張して泣いたり、怒ったり、甘えたりと子どもが無条件で保育者に感情を表している姿は寄り添う保育の成果だと思う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育               <ul style="list-style-type: none"> <li>調理職員による食育の時間が定着してきた。クッキング体験とともに子どもたちは食への関心が深まっている。試行錯誤しながら学んでいくクッキング形式へ移行する。</li> <li>子どもの姿                   <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に関わろうとする子</li> <li>食に対する関心の強い子</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数で食育活動に取り組んだので、子ども達の理解が深まった。</li> <li>コロナ感染症の影響で、クッキング保育が思うように実施できなかったが、農園で収穫した野菜を使い、随時、収穫から食へつなげていくことで子どもの関心を引き出すことができた。</li> </ul>
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>クッキングする子どもの様子を実際に見ることはなかったが、映像や写真を見ることで子どもたちの嬉しそうな表情を読むことができる。また映像からは子どもが積極的に行動している様子もわかった。</li> <li>保護者との連絡ノートからクッキングや野菜収穫等の子どもたちの生き生きとした楽しそうな姿がうかがえる。また家族の喜びも伝わってくる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校との連携をはかる               <ul style="list-style-type: none"> <li>*小学生と園児がふれあう機会</li> <li>*入学への不安を軽減する</li> <li>*教育課程について小学校教員との相互理解を深める</li> </ul> </li> <li>法人役員の保育への理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>*公開保育への参加</li> <li>*園行事への参加</li> </ul> </li> </ul>	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の低学年の体育授業に年長児が参加させていただいた。学校教諭にも実際に園児に関わっていただくことで、就学する前の子どもの姿（発達）を知っていただく機会を持つことができた。</li> <li>公開授業と公開保育を行うことで幼児期の保育と小学校での授業の在り方の相違点や大切にしていることの共通性などを互いに、学び合うことができた。</li> </ul>
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児が見ていることで小学生が実力以上の姿を披露していた。また園児が小学生に憧れを抱いているようにみえた。</li> <li>このような交流は互いに良い影響をもたらすと実感した。</li> <li>学校では小学校1年生は何もできないとして対応しているが、年長児の姿をみると最年長としての自覚と自信がついているとわかった。そのギャップをなくすよう対応を考えていきたい。</li> </ul>

項目	評価項目	評価	概要
地域へ向けての支援活動		評価	
支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>* コロナ禍で中止となったイベント等の再開</li> <li>* 出産後家庭訪問</li> <li>* いつでも利用者に対応できる職員動態</li> </ul> </li> <li>学童保育の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習支援</li> <li>* 体験活動のねらい</li> </ul> </li> </ul>	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であり規制があるが、今年度は健康体操を実施することができるようになり、少しずつではあるが、地域住民との関わりが持てるようになってきた。</li> <li>・感染症対策を実施・改善を繰り返し、支援センターを開放することができた。</li> <li>・学童保育は利用人数が減少したことにより、本来の目的に沿った活動ができるようになった。しかし、学習支援については継続的かつ計画的な取り組みには至らなかった。</li> </ul>
	関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動を対策を摂りながら進めていることは地域としては嬉しい事である。</li> <li>・以前のようにコンサートや寄せなどを開催してもらいたい。</li> </ul>	

	活動の定着	評価	
デイサービスセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の主体性を尊重した活動</li> <li>・デイリーを見直し、利用者の身体等状態により個別活動を取り入れる</li> <li>・集団から個への職員動態の検討</li> </ul>	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手指の訓練を兼ねた製作や機能訓練を兼ねた地域散歩などを1名から数名での活動とした。製作では利用者の創意工夫を引き出すことができ主体性をもって取り組むことができた。</li> <li>・利用者への個別の対応を職員間で共有しそれぞれに必要なサービスを提供している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちとの交流</li> <li>・目標としている日常的なふれあいを</li> <li>・行っていく。その為に各部で活動内容を共有し職員動態に反映させる。</li> </ul>	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染症対策を取りつつ可能な行事は各部で活動内容を話し合い園児と併に開催できた。</li> <li>・目標としている日常的なふれ合いについては、感染対策のため屋外のみでのふれ合いとなっている。園児や利用者感染者が出た場合は、交流を避けている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による高齢者特質の研修</li> <li>・ICTを活用した業務省力化</li> </ul>	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士を講師に招いて、高齢者の転倒防止・運動機能向上研修を実施。研修で学んだことを実践にどう活かしたかを自己評価に結び付けた。年間を通しての学びと実践と評価まで進めることができた。</li> <li>・タブレットと介護記録アプリを導入し、書類業務の省略可をはかり事務作業時間短縮に繋がった。</li> </ul>
	関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症のリスクが高い施設であるが、クラスターの発生もなくよく対策をとっている。</li> <li>・業務省力化の取り組みは遅いくらいであるが、導入し即実践していることは評価できる。</li> </ul>	

	職員の充実	評価	
法人職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合施設としての研修の充実</li> </ul>	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス車内へ園児の置き去りや園児への虐待についてのニュースを受け、人権についての研修を行った。自身の保育・介護を振り返りながら、再認識した。また、職員同士がどのような思いで保育・介護にあたっているかを、職員同士で意見交換する中で、他職員の保育・介護への思いを知ったり、互いの人間性を高め合うため有意義な研修を行うことができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務省力化への取り組み</li> </ul>	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用したり、事務時間を全職員に確保することで勤務時間内に業務を済ませることができるようになってきた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択できる勤務時間</li> </ul>	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここ数年は家庭の状況等にあわせ、短時間勤務・6時間勤務・短時間から8時間勤務へ変更するなど雇用形態を選択できる環境が整っている。</li> <li>但し、個人の働き方を尊重した結果職員数が時間帯によってばらつきがでている。</li> </ul>
	関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設全体で業務省力化に取り組み、働きやすい職場づくりを進めていることは評価できる。実践している職員の意識も向上しているのではないかと。</li> </ul>	

2.経営		総合評価 B	
法人全体	・デイサービス事業の安定	自己評価 A	デイサービス利用者が多くなりデイ単独の経営ができているが、急な入院や体調不良・新型コロナウイルス等で数週間から数ヶ月デイを休む利用者がいるため、月によっては介護報酬に大きな差がでる事があった。ケアマネは良い評判を聞いて利用者を紹介していただける方が増えた。
	・園児の確保	自己評価 C	・園児獲得に向けて継続的に広報活動（SNSの活用）を行ってきたが、ピンポイントでの広報活動は難しく効果が得られなかった。今後はSNSや園だよりを充実させ、新しい取り組みを模索し園職員全体で検討、活動していく。
	・職員処遇改善	自己評価 B	キャリアアップと賃金改善を組み合わせることで職員の意識を向上させようと取り組んではいるが、まだ全員の賃金改善を図ることが優先されている感がある。また職種による支給額の差をなくすために努力しているが保育と介護の給付金の仕組みが違うので難しい。
	関係者評価 B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスの収益が上がっていることは安定した経営ができるが、園児数の減少による減収は防ぎたいので園児の獲得に頑張してほしい。</li> <li>・処遇改善に前向きに取り組む姿勢は評価できるが、無理のない実行計画を立てて欲しい。</li> </ul>

3.評価及び改善		総合評価 A	
法人全体	・要望調査と改善	自己評価 A	・保護者に行事や職員とのコミュニケーションについてアンケート調査を実施した。家族の要望を述べる機会としてこの調査は好評であった。
	・職員自己評価と園の自己評価		・保育教諭、調理員、介護職員等それぞれの専門についての自己評価を行うことで振り返りと次年度への目標設定を行った。
	・苦情に対する対応と改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情については随時対応し、内容をホームページで公表してきた。</li> <li>・理事会にて報告し、また必要な場合は地域通信を発行してきた。</li> </ul>
	関係者評価 A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の自己評価や苦情対応などは誠実に行っていると思う。</li> <li>・保護者へのアンケート調査の結果をしっかりと活動に反映してほしい</li> </ul>